

2022年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2023/9/27

団体名	つるっ子プロジェクト実行委員会	活動タイトル	食を通じた居場所支援の環境づくり、及び自己肯定感を養う社会教育に関する事業	
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景	
<p>● 地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>当団体の実現したいビジョンは「有機的な関係性が絶えない共生できる社会」である。 具体的には富士東部を中心とした地域に対してよりよい環境、社会、暮らしを望む人が、居心地のよい場を築くことを目指す。また緊急に支援が必要な人だけに焦点を絞らずに、一方的な支援体制や閉ざされた関係性になると考える。そのため、予めリスクを減らすという観点も含めて、誰もがよりよい環境、暮らしで共生できる社会を目指して、共に活動を創り上げていくことを目標とする。</p>		<p style="text-align: center;">つる食堂の様子</p> 	
<p>● 団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>当団体の社会的役割（ミッション）は「誰もが安心して心身共に健やかにいられる社会を創る」ことである。具体的には以下のような取り組みを行う。 1) 行政や各種機関・団体らと連携しながら、物資の寄付を受付する窓口の役割を持ち、同時に必要な人・団体などに必要な分を届けるまでの役割を担う。 2) 地域食堂や子ども食堂を、資金・情報提供・人材派遣といった面で支え、それらの活動をより安定して持続可能なものにするを図る。 3) 学習支援では、大学生らスタッフが勉強を教えらるる環境のほか、学校では習わない学びに触れる機会を作ることや学校以外の居場所を創出する。</p>			
<p>● 団体の活動基盤</p>	<p>● 人的資源 ①スタッフ7名→20名 ● 物的資源：①協賛企業の獲得:10社→30社、②寄付等に協力する正会員100名、③行政、社会福祉協議会をはじめとする各種機関との協力体制の構築 ● 活動資金：①自主財源（会費・寄付・自主事業）の比率を50%程度とする ②事業規模：60万円→300万円 ● 情報：①協力者を増やし活動の認知度を高めるための広報活動の拡充、 ②効率的かつ継続的な事業運営と活動を目的とした各種マニュアル整備</p>			
■ 活動報告			■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)	
<p>● フードバンク事業においては、フードバンク山梨の事業参加を含めて1～2か月に1回の開催を通して、延べ3,346人に配布した。都留市、山梨県、都留市社会福祉協議会との連携を構築できた。都留市内の幼稚園・保育園、介護施設、障がい者施設、大学生に食材提供を行うことでフードバンク活動の認知を拡大した。また、企業やフードバンク山梨から食材の供給体制を構築することができ、食材配布の頻度を2か月に1回から1か月に1回に増加した。 ● 居場所づくりにおいては、2022年8月から2023年3月までの参加者数は小学生から高校生まで合計24人だったが、2023年6月から再開してからは、毎月寺子屋のチラシを配布することで8月4日までの2か月で参加者数が39人に増加した。 ● 広報においては、フードバンク活動や食材・金銭の寄付をお願いする冊子・チラシを作製し、都留市内の団体や市の広報を通して約14,000世帯に配布した。それに伴い、認知して下さる団体・企業の数が増えた。</p>			<p>● 人的資源 ①スタッフ7名→20名 ● 物的資源： ①協賛企業の獲得:10社→15社 ②寄付等に協力する正会員7名にとどまった。 ③行政、社会福祉協議会をはじめとする各種機関との協力体制の構築 都留市や都留市社会福祉協議会と食材配布における連携体制を構築できた。 ● 活動資金：①自主財源（会費・寄付・自主事業）の比率は25.7% ②事業規模：60万円から90万円に増加 ● 情報： ①チラシ配布回数を増やしたので、つる食堂や寺子屋への参加者が増加した。 ②効率的かつ継続的な事業運営と活動を目的とした各種マニュアルの改良はできなかった。</p>	
■ 事業を通じて得られたノウハウ			■ 望ましい社会状況を達成するための課題	
<p>1人暮らしの大学生を支援するための基盤が作れた。大学の事務局や大学周辺にある山梨県や都留市の施設と連携をとることで、大学生が集まりやすい場所で食材配布を行なうことができた。 また、行政や社会福祉協議会と連携することで、幼稚園・保育園、介護施設、障がい者施設などの食材配布先の確保、食材の提供先の確保を行った。それに伴い、子育て世帯や高齢者世帯に広く認知と食材提供が可能になった。 活動告知においては、学校や近隣家庭に配布するチラシの発行頻度を向上したことで、参加者数が前年に比べて10%増加した。</p>			<p>山梨県内で食を通じた支援を行っている団体との連携がまだ十分ではない。役割分担や食材の融通を行なうことでより食を通じた支援が充実すると考えている。 支援における周知徹底も課題になっている。現状では必要としているかたがどこに行けばよいか分からない状態になっているので、行政やフードバンク団体と連携して、困ったら当団体に頼れるような道筋を構築することが求められる。並行して活動の継続により当団体の認知度を高めていく。</p>	
			■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）	
			この1年間の活動を通じて	食を通じた居場所の価値を高めること
			■ 受益者の具体的な変化（自由記入）	
			<p>参加する子どもが大学生とつながるようになった。 子育て世帯が食材配布を通して食事の負担を軽減している。</p>	